

歌唱用マスク(下部開放型マスク)の安全性につきまして

全日本合唱連盟が実施した「合唱活動における飛沫実証実験」やクラシック音楽公演運営推進協議会が実施した「声楽・合唱における飛沫感染リスク検証実験」の報告書において、歌唱用マスク(下部開放型マスク)は、一般的な形状のマスクよりも飛沫抑制性能が劣るという考察が提示されています。

「合唱活動における飛沫実証実験」(全日本合唱連盟)

<https://www.jcanet.or.jp/news/himatsu-JCAhoukoku1208s.pdf>

「声楽・合唱における飛沫感染リスク検証実験 報告書」

(クラシック音楽公演運営推進協議会)

https://www.classic.or.jp/2020/12/blog-post_11.html

一方で、一般的な形状のマスクは呼吸や口の動きが制限され、歌唱において様々な困難が生じることも事実であります。歌唱用マスクは、感染(飛沫拡散)のリスクを低減しつつ、一般的な形状のマスクのネックとなる歌唱面での課題を解消するべく開発されたものです。弊社といたしましては、これらマスクは「合唱活動の安全を保証するものではない」という前提のもと、感染リスクを低減することと歌唱・合唱を快適に行うことの両立を図るためのツールとして販売を続けております。製品の特性をご理解いただき各合唱団や練習施設の状況に応じてご活用ください。

なお、より感染リスクを抑えるために下記の点にご留意のうえご使用いただくことを推奨します。

- ・参加者の体調管理や、部屋の換気、距離の確保など、各種施設や団体が示す通常の感染対策を併用する。
- ・練習や演奏時以外の感染対策に注意する。(歌唱時以外にも感染のリスクが存在することを参加者が理解し行動する。)

2020年12月18日

株式会社パナムジカ